

高齢者の買い物支援

高齢者や障害者の場合、体の自由が利きにくい、運転免許がないなどのため、買い物や通院、食事の支度や雪かきなど、一人では不安なことが多くなります。そこで県では、二〇一一年度の地域支え合い体制づくり事業で、市町や社会福祉協議会、NPO法人などが行う日常生活支援の活動やサービスの立ち上げに補助を行いました。

これを受け、若狭町では、民生委員・福祉委員・老人家庭相談員・ふれあいサロン世話人などの福祉関係委員の連携を目的に、小学校区単位で「地域福祉懇談会」を開催し、気掛かりな方の訪問・見守り活動の協力体制づくりに取り組みました。

さらに各地区代表者からなる「地域支え合い検討会議」での話し合いや、六十五歳以上の住民を対象にしたアンケートの結果、最も多かったのが「買い物」のための移動手段に困っているという声でした。そこで

いきいきライフ

地域支え合い体制づくり事業



送迎ボランティアによるワゴン車の「明倫買い物クラブ」。高齢者の買い物の足になっている＝若狭町明倫地区で

若狭町社協では、この問題の解決と住民のボランティア活動の推進のため、県の補助事業を活用してワゴン車を購入し、町内の送迎ボランティアの取り組みに無償で貸し出す体制を整えました。このワゴン車を活用した

活動の第一号が、昨年三月に明倫地区にできた「明倫買い物クラブ」です。毎週木・金曜日の午前と午後、商業施設のPLANT2が送迎ボランティアの希望があったことから「明倫買い物クラブ」を立ち上げました。当初は週一日でしたが、好評のため八月から週二日運行に増やしました。

この送迎車は、買い物の不便を解消するばかりでなく、利用する地域の高齢者同士が顔を合わせ、話をするコミュニケーションの場ともなっており、お互いの見守りや孤立防止にも大きく役立っています。

十月には運転ボランティアの意見交換会が開催され、班ごとの連絡体制や冬の運行計画などについて話し合うとともに、利用会員の皆さんの喜び、姿に充実感を感じながら活動している様子が報告されました。

若狭町では、他の複数の地区でも送迎ボランティアの立ち上げに向けて住民アンケートなどの取り組みが始まっています。支えられたい物クラブを立ち上げたいという、住み慣れた地域内での支え合い活動の輪が広がっています。

現在の利用会員は六十、八十代の高齢者十七人。一月末までで百四十一便を運行し、延べ四百十五人が利用しました。

見守りや孤立防止にも

地域支え合い体制づくりの事業に関する情報は、県地域福祉課＝電0776(20)0326へ。

(県地域福祉課)